

## 山頂から冬の富士を見る

## 雲取山

実施日 2009年3月14日(土)～15日(日)

天候 雨/晴れ

リーダー 馬場 清士

参加者 若村勝昭、馬場清士、山崎富美恵、鈴木恵美子 計4名

費用 交通費2,500円 宿泊費6,500円  
計9,000円

タイム 14日 奥多摩駅(バス8:35)鴨沢(9:15)小袖乗越(9:45)堂所(11:40～12:00 昼食)ブナ坂(14:05～14:20)奥多摩小屋(15:00～15:10)小雲取山(16:05)雲取山(16:40)雲取山荘(17:05)泊

15日 雲取山荘(7:55)雲取山(8:30～8:55)小雲取山(9:25)奥多摩小屋(10:00)ブナ坂(10:40～10:50)七ツ石山(11:10)七ツ石小屋(11:40～12:15 昼食)堂所(13:00)登山口(14:35)鴨沢(14:55～15:17 バス)奥多摩駅(15:45)

前日の天気予報では、14日未明から午前中にかけて前線が通過し荒れ模様、午後から次第に快復し、15日は快晴との予報を信じ、山行を実施した。

当日は朝から雨、青梅を過ぎた頃、車内でスパッツ、レインウェアを着

け準備をした。

鴨沢で数人の登山者がバスを降りた。昨日の天気予報の影響か登山者が少ない。

鴨沢バス停からいきなり舗装道路の急登が待っていた。バスを降りた青梅街道を見下ろしながら登っていく。外は雨、ウェアの中も雨が降りだす。車道を暫く行き、小袖乗越のあたりから左の登山道に入る。

樹林帯の中をゆっくり高度を稼いでいくが、単調な登りが続き、うんざりするころ堂所の小広い平地に出る。ここで雨の中、立ったまま昼食を摂る。

以前来た時はこの当りから雪道だったが、まったく雪が無い。

空模様は、雨、曇り、曇、小雪と



目まぐるしく、レインウェアを脱いだり、着たりと忙しい。七ツ石小屋への分岐を過ぎ、ブナ坂への巻き道に入る頃から、雪やアイスバーンが斑に出てきた。アイゼンを付けて慎重にブナ坂への道に行く。ブナ坂は、鴨沢、石尾根、唐松谷林道、雲取山への分岐点で広い鞍部である。雨も上がり、薄日が射し始め、天気予報が当たった。防災ヘリポートを過ぎると奥多摩小屋だ。この当りから遠くに雲取山の避難小屋が見える。晴れていれば、目の前

に富士山が見えるが残念だ。小雲取山への最後の急登を、アイゼンを利かせジグザグに登る。小雲取山から一登りで雲取山山頂だ。あいにく富士山はご機嫌斜め、風も強く早々に山頂を後にし、雲取山荘へ向かう。山頂から秩父側へ降りはじめた途端に、雪が多くな



り冬山らしくなった。20分程の下りで雲取山荘だ。山荘の前は40～50cmの雪が積もっていて、傍らにカマクラが作ってあった。

夕食後、星空と東京の夜景が素晴らしかった。明日の晴れを楽しみに、炬燵の入った個室で、4人ゆっくり眠りに付いた。



15日5時起床、雲一つ無い快晴、5時52分に素晴らしいご来光を見ることができた。

朝食の後7時55分に小屋を出発、昨日下った道を雲取山へ登り返す。山頂からは、眼前に雲一つ無い雄大な富

士山が鎮座しており、南アルプス、奥多摩、丹沢の山々が広がっている。北



側には、浅間山、奥秩父方面が見えて360度の展望が

素晴らしい。右手に富士山を望みながら、昨日来た道をブナ坂まで戻り、七ツ石山に向かう。

20分程で山頂に着くと、ここでも素晴らしい富士山が待っていた。七ツ石小屋まで下り、陽を浴びながら昼食を摂った。右に富士山、左に石尾根を望みながら堂所に下り、昨日来た道を鴨沢に下りた。



暖冬で雪

が少なかったが、快晴に恵まれて素晴らしい展望に出会えた山行でした。参加された皆さんお疲れさまでした。

(記&写真・馬場 清士)

